

後期アクションプランにおける取組(事業)の進捗管理評価シート

資料2

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
の基本目標1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたち	1-1 運動遊びによる就学までのスポーツ土台づくり	① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨	1 子どもの心の心身(心と身体)の育成を支える人材育成事業	〈目的・狙い〉 子どもの育ちに関心ある保護者や子育て支援センターで養成を受けた子育て支援サポーター等地域の子どもの育ちを支える人材、保育関係者等の育成を図る。 〈取り組み内容〉 子育て支援サポーター養成者フォロー講座の開催	①子育て支援サポーター数 53人	①62人	①95人 (153.2%) 子育て支援サポーター95(うち子育て見守り支援員31)	S	R5年度からは、子育て見守りサポーターとして募集を開始。また、地域全体で子どもや子育て家庭を見守り支えていくために、子育て支援サポーター養成講座修了者や、地域の方々等に「見守り支援員」へ登録していただき、子育て家庭のニーズに応じ、子どもの見守りや保護者の話し相手といった活動に取り組んだ。
		③運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実	1 運動遊び、信州型自然保育支援事業	〈目的・狙い〉 健康的な生活習慣を子どもたちに定着させるため、体を動かして遊ぶことの楽しさを「運動遊び」により、また、地域資源を活用した屋外活動や地域との交流活動を「信州型自然保育」による保育を推進します。 〈取り組み内容〉 身体教育医学研究所が園児を対象に運動能力の研究をしており、研究結果から出た課題を克服する運動遊びを取り入れます。	-	-	活動回数 61回 参加者総数 1,990人	A	東御市の自然を活かし、楽しく運動する活動を定期的に実施できたことで、子どもたちの運動能力の検証や研究結果のフィードバックにも十分な成果をあげられている。
	1-2 小学期のスポーツへの円滑な接続	①学校体育及び強化外・放課後活動充実のための専門的支援	1 体力・運動能力等調査への専門的支援	〈目的・狙い〉 ・国が実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、本市の児童生徒の体力・運動能力の状況を正確に把握し、施策の成果と課題を的確に捉えることからその改善を図るとともに、子どもたちの体力の向上に向けた継続的な検証改善サイクルを確立する。 〈取り組み内容〉 ・毎年度、児童(小学5年生)及び生徒(中学2年生)を調査対象として実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、事前準備段階から身体教育医学研究所、スポーツ推進委員による連携を図り、各種調査の正確な実施を徹底し、適正な調査結果が得られるよう努める。	①調査回数 1回 ②小中学生の体力テスト合計点平均 50.59点	① 1回 ② 52点	①1回 (100%) ②51.0点 (98.1%)	A	各学校において体力テストを毎年実施することで、児童生徒の体力の推移を把握し、子どもたちの体力向上のための継続的な検証と改善サイクルが確立されている。

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
基本目標1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成	1-2 小学期のスポーツへの円滑な接続	①学校体育及び強化外・放課後活動充実のための専門的支援	2 放課後子ども教室事業の実施	〈目的・狙い〉 小学生期に身近な場所でスポーツに親しむ元気な子供の育成と児童の放課後を安心安全に過ごせる環境整備を兼ね、放課後に地域住民の参画を得て学校施設等を活用した様々な体験・交流活動プログラムを提供することでスポーツによる達成感を知り、スポーツの習慣化、競技スポーツへの接続及び生涯スポーツへのきっかけの場とします。なお、当面の間は、現在の「げんき塾」の取組みを拡充する形で継承し、放課後等の活動を一層充実させます。 〈取り組み内容〉 ・運営方針、実施要領の作成 ・事業計画作成 ・スタッフの確保 ・お知らせ、参加者募集(登録) ・スタッフ調整会議の開催(プログラム検討、PDCA管理等)	①教室実施回数 10回 ②参加者数(延べ人数) 140人 ③ボランティアスタッフ(延べ人数) 54人 ④東御清翔高等学校(延べ人数) 85人	①20回 ②500人 ③200人 ④50人	①20回 (100%) ②513人 (102%) ③163人 (49%) ④26人 (56%)	B	定期的な実施で、参加児童が遊びの体験の中で楽しく身体を動かす機会を設けることができている。ボランティアや高校生の参加は目標値には及ばなかったが、参加者やボランティアの幅広い年齢の中で交流が図れた。
				〈目的・狙い〉 ・令和5年度から、中学校における休日の運動部活動指導が地域へと移行するにあたり、新設したスポーツ人財バンクを活用し、運動部活動の一層の充実を図るとともに、地域と学校が連携した支援体制の構築に向けた検討を行います。 〈取り組み内容〉 ・地域での支援体制検討会議の開催(スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、中学校運動部活動顧問、外部指導者等が連携し地域における支援体制の充実に向けた検討を行う。)	①会議開催数 0回 ②部活動指導員数 2人	①2回 ②30人	①2回 (100%) ②16名 (53.3%)	B	指導員数は目標値には及ばなかったものの、一部の部活動でニーズに合わせて教員以外の指導者を入れることができ、今後の地域移行の参考として効果的なものとなった。
	1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応	③ 中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入	1 「ゆるスポーツクラブ」の実施	〈目的・狙い〉 運動部活動に加入しない生徒を対象に、楽しめる運動やニュースポーツを体験できる場を提供し、継続して運動を続けようとする意欲につなげることを目的に、自分のペースで運動・スポーツを実施したい、運動離れしている生徒を対象に「ゆるスポーツクラブ」を実施します。 〈取り組み内容〉 総合型地域スポーツクラブの指導者が定期的に学校へ赴き、生徒とともに運動の楽しさをクラブ活動を通して通年開催する。なお、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブとの連携・協力体制の構築に向けた検討を行います。	①参加者数(単発) 0人 ②参加率(単発) 0	①20人 ②16.81	①30人 (150%) ②25.21 (150%)	S	参加者、参加率ともに大きく伸び、中学生のニーズが大きかった。子どもたちの運動離れを防ぐためにも、重要な取り組みである。

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
基本目標 2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実	2-1 スポーツ参加のきっかけとなる機会(イベント)の充実	① 市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取り組み	1 チャレンジデーへの継続参加	〈目的・狙い〉 運動やスポーツの習慣化を図るきっかけづくりとして、継続的にチャレンジデーに参加することで、健康意識や運動・スポーツに対する意識の向上を図ります。 参加にあたっては、コロナ禍でも実施できるオンラインプログラムを企画する。また、チャレンジデーをきっかけに、スポーツ団体やプロ スポーツチームとの協力関係を深めることで、様々な教室やイベントの開催につながることを期待します。 〈取り組み内容〉 ①チャレンジデー東御市実行委員会の設置：広報活動、関係団体への協力依頼、プログラム内容の決定 ②各年度の目標・テーマの設定 ③広報活動として、地域にチャレンジデーの取組み意義を知ってもらうため、広報誌 や地元新聞、ラジオ、CATV等のメディアを活用して、チャレンジデー当日のイベントや参加方法について積極的に周知する	①広報活動回数 4回 ②イベント参加率 60.3%	①8回 ②63%	①8回 (100%) ②55.3% (87.8%)	A	R5年度でチャレンジデー事業は終了したものの、積極的な広報活動を行うことができ、市内のスーパーや学校の事前周知や当日の協力もあり、市民の半数以上の参加ができた。 また、当日は中央公園周辺で、普段は触れることのないスポーツやユニバーサルスポーツを体験できるブースを設け、多く子どもたちが楽しみながら参加していた。
	2-2 青壮年期のスポーツ活動の普及・促進	① 働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進	1 親子参加型スポーツ教室、働き盛り・子育て世代対象の教室の実施	〈目的・狙い〉 「東御市の運動・スポーツに関するアンケート調査」結果、男性の30～40代、女性の20～40代のいわゆる働き盛り・子育て世代のスポーツ実施率は低く、運動不足と感じている方も多い世代でした。一方で、「子どもの体力づくり」が本市のスポーツ振興への期待として多いことも伺えました。 そこで、親子が一緒にスポーツを楽しむ機会を設けることで、運動・スポーツに親しむきっかけとします。実施にあたっては、参加しやすい時間帯、場所、内容を検証した親子参加型スポーツプログラムで、親の運動不足、ストレスの解消を図るとともに、子どもの肥満解消、スポーツの習慣化による体力の向上等の好循環化を図ります。 なお、本取組みは、第2次東御市健康づくり計画「健康とうみ21」後期計画(令和2年～6年度)の基本方針1に規定する施策(2)身体活動・運動の推進の具体的な取組みとして実施します。 〈取り組み内容〉 1 プログラムの開催 ・親子:スラックライン、カヌー体験 ・働き盛り世代:湯の丸高原ウォーク、ヨガ教室 2 企業の「健康経営」等と連携した取組みの検証 3 各プログラムの指導者発掘 4 積極的な周知及び募集	①教室回数 20回 ②プログラム数 4 ③参加者数 400人	①20回 ②4 ③400人	①29回 (145%) ②2 (50%) ③180 (45%)	B	子どもと一緒にスポーツを楽しむことで、親世代の運動のきっかけをつくり、親世代が子どもの体力向上だけでなく自身の運動に対する意識を持つ機会を設けることができた。 また、子どもと体験を共有することで親子での関わりが増えたことも成果としてあがっており、今後も実施していきたい。

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
基本目標2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実	2-4 地域スポーツ活動組織・人材等(ソフト)の充実	① スポーツ推進委員活動の強化	1 スポーツ推進委員組織の充実	〈目的・狙い〉 市民や行政、スポーツ協会、障がい者スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなどとの連携を図るとともに、多様な組織や団体との連絡調整を行う中で幅広いネットワークを築き、地域スポーツに欠くことのできない「支える」組織の基盤として体制を強化し、地域に適した大会・イベント等の企画、地域スポーツのコーディネーターとして、市民のスポーツや健康づくりの基盤として地域におけるスポーツ活動の幅を広げる活発な活動ができる組織を目指します。 〈取り組み内容〉 スポーツ推進委員の目的を共有するため研修会や勉強会を企画する。 多様な価値観を受け入れ、地域のニーズを捉えた独自のスポーツイベントを企画するなど、地域スポーツのコーディネーターとしての役割を果たせる人材で構成する、質の向上を目指した組織とする。	①勉強会開催数 ②イベント開催数 ③スポーツ人財バンク登録人数	①2回 ②2回 ③8人	①5回 (250%) ②4回 (200%) ③1人 (12.5%)	B	例年行っているスポーツ業務の補助業務に加え、地域のスポーツ振興をコーディネートできる組織を目指し、会議・活動を行ってきた。イベント等の開催数は目標より上回ったため、今後も継続して地域のスポーツ推進役としてスポーツ振興をコーディネートできる組織を目指していく。スポーツ人財バンク制度に登録はしていないが、地域から派遣依頼を受けてスポーツイベントの講師等を受けている。
		③ 総合型地域スポーツクラブや人材バンク(仮称)の創設	1 総合型地域スポーツクラブSany TOMIの運営	〈目的・狙い〉 総合型地域スポーツクラブSany TOMIの会員が増える事で地域住民のスポーツ関係人口増が見込める。その為にも安定した運営が必須となり、多くの方が興味を持てるプログラム展開が必要となる。 〈取り組み内容〉 拠点(クラブハウス)の活用、指導者の発掘、新規プログラムの開設を進めると同時に利用者のニーズの聞き取りをし、求められる運営及び活動を展開する。 会員の満足度を向上させる為にプログラムや指導以外のサービスの向上を目指し、会員の継続、参加率増を図る。 また関係団体や組織などと連携をし、既存の総合型地域スポーツクラブの認識を覆す新しいカタチの総合型地域スポーツクラブを目指す。	①教室数 9 ②会員数 250人	①9 ②250人	①9 (100%) ②182人 (72.8%)	B	プログラムによっては対象年齢が限定されているため、年度の切り替え時は、新規入会と同時に対象年齢以上になったことから卒業(退会)した者もあり、目標値には至らなかったものの概ね200人前後で安定している。ただし、教室の体験会を開催し、新しいニーズの発掘や展開に繋げる活動ができた。
			2 スポーツ人材バンクの運用	〈目的・狙い〉 スポーツ指導員の登録制度により、運動・スポーツの指導ができる(したい)人と指導を受けたい人を結びつけ(マッチング)、市民が気軽に、いつでも、どこでも、いつまでも、運動・スポーツに親しめる環境の整備とスポーツ指導者が知識、経験を活かした活躍ができる仕組みづくりをすることで市内スポーツの活性化を図ることを目的とする。 〈取り組み内容〉 スポーツ協会、各競技団体、スポーツ関係団体、企業、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等との連携により多種多様な指導者の募集、掘起し、また積極的な指導者資格の取得に向けた支援体制を構築する。スポーツ指導員の登録制度を確立し、市内の団体、学校部活動、地域スポーツクラブ等へ指導員を紹介する。また、指導者の資格取得助成を行うことで、指導の質の向上を図る。	①広報回数 - ②登録者数 -	①6回 ②50人	①2回 (33.3%) ②22人 (44%)	C	部活動の地域移行を視野に入れながら令和3年度に要綱を制定したが、国や県からの指針がなかなか示されず、現在も手探りで行っている状況もあり、積極的な情報提供もできなかったため指導者の登録者数があまり伸びなかった。しかしながら、将来を見据えて規則を整備することができたため、今後は地域の実情にあった環境づくり・体制づくりを推進していくことができると考える。

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
基本目標2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実	2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり	① 身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実	1 一般介護予防事業	〈目的・狙い〉 高齢者等の身体・認知機能の維持・向上を図るために継続的な活動を要することから、活動の中心となる指導員、サポーター及び参加者の増加を図る。 〈取り組み内容〉 1 らくらく教室(頭と体を無理なく刺激する介護予防教室) 地区公民館で、それぞれ週1回通年で実施 2 かんたん体操教室(ストレッチ、全身の筋肉を意識した運動) 武道館等で月2回通年で実施 3 貯筋教室(腹筋やスクワットなどの筋力トレーニング) 武道館等で月2回通年で実施 4 転倒予防水中ウォーキング(水中でのストレッチ、ウォーキング等) 温泉アクティブセンターで毎週1回通年で実施	①介護予防事業参加者数 ②介護予防事業サポーター数	—	①5,865人 ②550人	A	高齢期におけるスポーツ活動へのニーズが年々高くなっており、それぞれの志向に合わせた教室を開催でき、介護予防を意識しすぎることなく一人一人が楽しく自分のペースでスポーツに取り組む形をとれた。サポーターの数も順調に増えているため、安定的に事業を実施していきたい。
		② 障害の有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催	1 とうみポッチャオープン大会の開催	〈目的・狙い〉 誰でも一緒に楽しめるユニバーサルスポーツ「ポッチャ」の普及を図るとともに、ポッチャを通して、市内住民のみならず、近隣市町村住民までの交流を図り、障がいへの理解を深めるとともに「ポッチャのまち・とうみ」を目指す。 〈取り組み内容〉 ・ポッチャの大会＋1種目のユニバーサルスポーツ体験会を実施 ・県及び他団体の取り組みと連携を図り、年間を通じてストーリー性のあるイベントとする ・団体や組織、学校、施設からチーム出場を募るため、事前練習会を開催	①体験会開催数 10回 ②イベント参加者数 ③コート数 2	①10回 ②440人 ③6	①17回 (170%) ②1015人 (230.7%) ③6 (100%)	S	ポッチャ大会の事前練習会では1回につき平均50人の参加があり、大会でも200人以上の参加があった。また、地域の交流会活動等にポッチャを選ぶ地区が増えており、貸出数が増加し、少しずつポッチャの認識が根付いている。
		③ 市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い	2 公民館でのポッチャ活動	〈目的・狙い〉 ・日常の活動へユニバーサルスポーツの取り込み ・公民館に設置しているポッチャの活用 〈取り組み内容〉 目標を作り、積極的な参加を促す 公民館：分館交流スポーツ大会の種目とするよう働きかけ、それに向けての日々の活動	①公民館に設置しているポッチャの利用(貸出)回数 -	①20回	58回 (290%)	S	また、学校ではパラスポーツ体験会を実施し、子どもたちにもユニバーサルスポーツへの意識と理解が深まっている。

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
基本目標3 スポーツによる地域経済の活性化	3-1 スポーツ ツーリズム の推進	① 地域スポーツ コミッションの 設立	1 「地域 スポーツコ ミッション」 の運営支 援	〈目的・狙い〉 スポーツと地域資源である湯の丸高原スポーツ交流施設を戦略的に活用して地域経済の活性化を推進する「地域スポーツコミッション」の経営的自立と地域に経済効果をもたらす公益的機能を発揮できる事業体となるよう支援します。 市、スポーツ団体及び観光産業等が一体となった組織である「スポーツコミッション」が地域の特色を活かしたスポーツツーリズム資源の開発、独自性の高いイベントの創出・合宿の誘致等により、交流人口の増加と定着を図ります。また、「東御市」及び「湯の丸高原」の知名度向上のための積極的なプロモーションを多方面で展開し、ブランド力の強化及び地域全体の売上げ増加を目指します。 〈取り組み内容〉 1 湯の丸高原全体の内部統制機能の構築 ①合宿・施設利用の受付／問合せ一化、②各施設(宿泊、食事、施設)に関する意見収集、評価／分析、③スポーツ合宿の全体統制やPR活動等に関わる予算管理 2 組織の経営的自立(来訪者の増加/維持) ①高い専門性とマーケティング力を持つ人材の確保、②プロモーション活動、③スポーツを核とした幅広い事業(イベント等)の企画／運営、④組織の収益源の確保	①利用者誘客のための イベント開催数 1回 ②湯の丸高原入込客数 (百人)5,483 ③スポーツ合宿延べ宿 泊数 11,972泊	①3回 ②5,519百人 ③16,000泊	①2回 (66.7%) ②4,793百人 (86.8%) ③15,035泊 (94.0%)	A	設立当初は新型コロナウイルス感染症により一時期伸び悩んでいた入込客数や合宿数も、徐々に回復し、年々湯の丸の利用が増加している。今後においても、新規顧客獲得に加え、安定的な利用者確保を推し進めたい。 また、イベントも少ないながらも開催することができ、目標以上の参加があった。今後も湯の丸を活用したイベントを開催し、知名度の向上に努めたい。
		② 湯の丸 高原スポー ツ交流施設 等でのイベ ント開催や 合宿受け 入れ	1 スポー ツツーリス ムイベント の開催	〈目的・狙い〉 「湯の丸高原施設整備基本構想」の実現により、高地トレーニングの適地である標高1750mに位置する湯の丸高原に全天候型400mトラックや屋内プール等のスポーツ交流施設が整備され、陸上中長距離、水泳を中心とした本格的な合宿受入を行っている。今後ますます合宿の誘致を中心としたプロモーションを実施することはもとより、魅力的なスポーツツーリズムイベントを開催することで交流人口の拡大、知名度向上、集客増加等、地域経済活性化の好循環を創設する。 〈取り組み内容〉 ①テレビ、雑誌、新聞等によるメディアを活用した積極的なプロモーション活動 ②信州とうみ観光協会による、首都圏からの誘客による陸上、水泳のスポーツツーリズムイベントの開催 ③スポーツコミッションにおいて、湯の丸スポーツ交流施設一帯の施設運営、プロモーションによるスポーツツーリズムイベント開催、合宿受入等を一元的にマネジメントする。	①イベント開催数 1回 ②参加者数 32人	①3回 ②90人	①2回 (66.7%) ②122人 (135.6%)	A	

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
基本目標3 スポーツによる地域経済の活性化	3-2 スポーツを活かした地域の活性化	① 産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見累積	2 長野県国民スポーツ大会に向けた高地トレーニングセミナーの開催	〈目的・狙い〉 現在、GMOアスリートパーク湯の丸を利用する学生のうち、多くが県外学生で占めています。2028年の長野国民スポーツ大会にあわせ、県内学生アスリートに利用いただくことで選手の競技力向上を図るだけでなく、県内からトップアスリートの育成することで、大会を通じ、市民及び県民の感動につなげ、湯の丸高原の知名度向上を図ります。 〈取り組み内容〉 セミナーの開催に向けた各学校へのPR活動、県内学生の誘客活動の実施。	①セミナー回数	①2回	①1回 (50%)	B	高地トレーニングシンポジウムを湯の丸で開催し、県内外から多くの参加者があった。また、地元の中学生も一部参加するなど、市民向けにも湯の丸の施設を幅広くPRすることができた。
		② 専門機関等とのサポート連携協定の推進	1 大学等との包括連携協定による地域スポーツ環境の充実	〈目的・狙い〉 大学・企業に集積する知識、情報等を多様な政策目標のために活用し、学生等の参加により地域に不足する若い人材と専門知識を有する大学・企業等の協力を得て地域におけるスポーツ環境の充実を図るとともに、広くPRすることで地域の活性化につなげます。 また、行政ニーズや大学等の持つ強みや双方の人的ネットワークの深まりによって、多様な形で展開することを目指します。 〈取り組み内容〉 ・スポーツにおける地域資源の発掘等に関する調査・共同研究 ・高地トレーニングの聖地「湯の丸高原」のブランド化へ向けた提言 ・合宿の食事管理への監修、検食等による栄養分野でのサポート	①タイアップ事業数 - ②湯の丸高原入込客数 5,483百人 ③スポーツ合宿延べ宿泊数 11,972泊	①10 ②5,519百人 ③16,000泊	①3 (30%) ②4,793百人 (86.8%) ③15,035泊 (94.0%)	A	アスリート食堂の監修や、市と協定を結んでいる日本体育大学とのゼミ合宿や体操部の演技発表会などで地域資源を活用した活性化のPRができた。

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値(R1)	令和5年度 目標	令和5年度 3月末	評価	総合評価
基本目標4 競技ス ポーツ人口の拡大と 競技力向上	4-1 スポーツ 愛好から 競技志向 への円滑 な接続	①トップレ ベルの競 技スポーツ の魅力を 触れる機会 の提供	1 トップア スリートと の交流イ ベント開催	〈目的・狙い〉 高地トレーニング施設整備により湯の丸高原スポーツ交流施設での合宿者をきっかけとして、国内トップレベルのアスリート及び指導者を招聘し、交流の機会を設け、アスリート及び指導者の競技力向上に向けた取組み姿勢、練習方法、指導方法や等に直接触れることでのレベル向上を図る。 〈取り組み内容〉 ・練習見学 ・指導者及び選手との触れ合いイベントの開催	①トップアスリートとの 交流イベントの開催回 数 2回 ②参加者数 160人	①2回 ②350人	①2回 (100%) ②136人 (38.9%)	C	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行になり、ようやく湯の丸を活用したイベントを本格的に実施することができた。人数は目標値には至らなかったため、増加に向けて今後も実施を続けていく。
	4-2 高みを目 指す人々 への支援	② 競技レ ベルに応じ た練習環 境に移行 するための 支援	1 子ども たちの競 技力向上	〈目的・狙い〉 市内学校では屋外プールしか保有しておらず、練習時期が限定的となっていってしまうことから、湯の丸にある屋内プールを有効活用し子どもたちの競技力向上を目指します。 また、活用するにあたって地域の中から指導者を発掘することで地域において育てられる環境を整備します。 〈取り組み内容〉 ・中高生が湯の丸にある屋内プールを定期的に利用できる環境の構築	①体験会及び測定会の 実施回数 ②参加者数	①4回 ②100人	①42回 (1050%) ②732人 (732%)	S	体験会の開催数も参加者も大きく伸び、学校のプールとは違った環境での練習は、東御市独自の環境を市民が有効に活用できており、利用者のニーズが高いことが分かる。